

## 平成 14 年度環境監視結果年報の概要

### 1 結果取りまとめの期間

平成 14 年 4 月から平成 15 年 3 月まで

### 2 環境監視の項目

大気質、騒音・振動、悪臭、海水の流れ、水質、底質、汀線、海域生物及び鳥類

### 3 結果の評価

#### (1) 評価の主体

空港島及び対岸部工事中の環境監視に関する検討委員会（委員長：北野康 名古屋大学名誉教授）

#### (2) 評価の考え方

環境監視結果を環境基準値、規制基準値及び過年度調査結果並びに環境影響評価書の予測結果と比較し、工事の実施による周辺地域への環境影響の程度を把握することにより、評価がなされている。

#### (3) 評価の内容（総合評価）

##### (1) 環境基準値・規制基準値等との比較

大気質、騒音・振動、悪臭及び水質について、環境基準値や規制基準値等と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準に適合するか環境基準値または規制基準値等以下であった。

- ・ 一般環境大気質の浮遊粒子状物質（SPM）については、短期的評価で環境基準に適合していなかったが、その状況は着工前の平成 10～11 年度と同様であった。
- ・ 沿道環境大気質の浮遊粒子状物質（SPM）については、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）において 1 時間値が環境基準値を 1 回超えていた。
- ・ 特定悪臭物質については、漂着したアオサの腐敗によるものと思われるメチルメルカプタン、硫化水素及び硫化メチルが夏季の常滑市保示町 5 丁目において規制基準値を超えていた。
- ・ 水質の項目のうち濁り（SS）については、水産用水基準を超える場合があったが、そのうちの約半分は自然要因によるものであり、工事影響の可能性のある濁りは確認されなかった。
- ・ 水質の項目のうち化学的酸素要求量（COD）、全窒素（T-N）、全燐（T-P）については、監視点 TS5 及び TS6 の化学的酸素要求量（COD）、TS6 の全燐（T-P）以外は、環境基準値を上回っていたが、愛知県が実施した公共用水域等水質調査結果と比較した結果、ほぼ同様な傾向であった。

##### (2) 過年度データとの比較

全ての項目について、過年度データとの比較（着工後と着工前とのデータ比較）をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて着工前後において値や出現状況にほとんど変化がなかった。

- ・ 沿道環境大気質について、平均値では、常滑市椎垂木（県道碧南半田常滑線）及び常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）の二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）が高か

った。

- ・ 道路交通騒音について、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）の昼間においては若干高かった。
- ・ 悪臭について、夏季の常滑市保示町5丁目において漂着したアオサの腐敗によるものと思われるメチルメルカプタン、硫化水素及び硫化メチル、並びに臭気指数が高かった。
- ・ 海水の流れについて、空港島南の小鈴谷沖監視点では上層の流速が若干小さくなっている傾向がうかがえたが、予測結果との比較をした結果、ほぼ同様の傾向であると考えられた。
- ・ 底質について、監視点 TS4 においてシルト・粘土分の割合、強熱減量、化学的酸素要求量（COD）、全硫化物及び全窒素（T-N）がやや高かったが、一時的なものと考えられた。
- ・ 汀線位置については、着工前の平成5年、6年、7年及び12年並びに着工後の14年において、ほとんどの区間で前進又は後退の様々な変化がみられた。
- ・ 美浜町コロニーにおけるカワウ生息数は7月には着工前後において大きな変化はみられなかったが、11月には同時期過去最多となった。

なお、沿道環境大気質及び道路交通騒音については、過年度データとの比較（着工後と着工前とのデータ比較）した結果、高い場合があったものの、事業者においては、資機材についてほとんど海上輸送を行うとともに、作業員については中継基地を利用した集約輸送を行い、交通量の減少に努めていることから、工事による影響は少ないものと考えられた。

### （3）予測結果との比較

大気質、騒音・振動、海水の流れ及び水質について、予測結果との比較をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて予測結果よりやや低いものもあったが、ほとんどは予測どおりであった。

- ・ 一般環境大気質について、苅屋局の二酸化硫黄（ $SO_2$ ）の1時間値は予測結果より高かった時間数が測定時間数8623時間のうち9時間あったが、その時の発生時刻前後の風向は事業実施区域からの風向ではなかった。
- ・ 沿道環境大気質について、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）の二酸化窒素（ $NO_2$ ）の平均値は予測結果より高かった。また、二酸化窒素（ $NO_2$ ）の1時間値は予測結果より高かった時間数が測定時間数672時間のうち5時間あった。

### （4）まとめ

平成14年度の環境監視結果では、工事に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

なお、底質、汀線、海域生物及び鳥類については、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要がある。

#### 4 今後の対応

平成14年度の「空港島及び対岸部工事中の環境監視に関する検討委員会」の評価を踏まえて、中部国際空港株式会社及び愛知県は、次の対応を行なう。

##### 適切な環境監視の実施

今後の工事の進捗に応じて、引き続き環境監視を実施していく。

なお、評価のなかで特に指摘のあった事項については、次のとおり対応することとする。

##### 底質

底質については、短期間でその変動傾向を把握することが難しいこと等から、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、底質の変化に注意して監視を継続していく。

##### 汀線

汀線については、周辺の地形はもとより、気象、海象等の様々な影響を受けるものである。したがって、汀線変化の傾向を把握するためには、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、汀線の変化に注意して監視を継続していく。

##### 海域生物

海域生物は、自然環境下において変動が大きいことや、生物によっては環境の変化に反応して変化が現れるまで時間がかかることから、短期間の調査で工事による影響を把握することは難しい。したがって、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、海域生物の変化に注意して監視を継続していく。

##### 鳥類

カモメ類等水鳥・カワウ出現状況は年によって大きく変動する可能性があることや、今回のように仮設物の設置・撤去及び埋め立て状況の変化により水鳥の生息状況が変化することから、短期間の調査で工事による影響を把握することは難しい。したがって、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、カモメ類等水鳥・カワウ出現状況の変化に注意して監視を継続していく。

#### 5 環境監視結果年報の公開

環境監視結果年報については、常滑市新開町の環境監視センターや関係市町の庁舎において公開するとともに、インターネットを通じてその概要を公開する。

<http://www.pref.aichi.jp/kigyo-chosei/>

<http://www2.cjiac.co.jp/kankyo/>

(参考)

空港島及び対岸部工事中の環境監視に関する検討委員会構成員

委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員長	区分
吉久光一 よしひさこういち	細川恭史 ほそかわ やすし	工藤盛徳 くどう せいとく	北田敏廣 きただ としひろ	小笠原昭夫 おがさわら あきお	岩田好一朗 いわた こういちろう	北野康 きたの やすし	氏名
名城大学理工学部建築学科教授	国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長	東海大学海洋学部水産学科教授	豊橋技術科学大学エコロジー工学系教授	愛知女子短期大学非常勤講師	名古屋大学大学院工学研究科教授	名古屋大学名誉教授	役職等